

GFP大規模輸出産地生産基盤強化プロジェクト採択地区の概要(北海道)

実施主体名	北海道産米輸出促進協議会
参画事業者	ショクレン北海道、JA新函館、JA美唄、東條産業、舟山ファーム、北海道
対象品目 対象国・地域	コメ（低農薬米、マイコス米）：メキシコ、EU

推進体制の構築

- マイコス米や低農薬米の試験栽培に関する実証事業者など関係者による産地化対策会議を開催
- 輸出支援PFの協力を得て、メキシコやドイツ・フランスの現地実需者・商社を訪問し、商流・品質・価格等のニーズ調査や、メキシコの規制や経済情報に関するセミナーを実施

生産の転換

- 倶知安町の東條産業の実験圃場にて、マイコス米の乾田直播栽培の確立に向けた栽培実証を実施
- 当麻町の舟山ファームの実験圃場にて、EU向けに、えみまるの低農薬栽培の確立に向けた栽培実証及び残留農薬検査を実施

流通の転換

- ショクレン北海道の精米施設にて、FSSC22000の申請に向けた専門家による現場での申請サポート研修を実施
- 北海道からのEU、メキシコ向けへの輸物流通実証を実施し、時間・コスト・現地評価を調査

輸出額目標（百万円）

品目	令和4年度	令和7年度
コメ	129	194
（うち メキシコ・ EU向け）	0	31.5



GFP大規模輸出産地生産基盤強化プロジェクト採択地区の概要(北海道)

実施主体名	北海道農畜産物・水産物輸出推進協議会
参画事業者	北海道、ホクレン、JA北海道中央会、JETRO等
対象品目 対象国・地域	①コメ：台湾、英国、ドイツ ②かんしょ：ベトナム（加工品）、アメリカ（加工品） ③玉ねぎ：オランダ、台湾

推進体制の構築

- <コメ>
 - JA生産者等による台湾の日本食チェーンのニーズ調査、英国・ドイツでの規制・ニーズ調査を実施
- <かんしょ>
 - JAにて育苗の進捗状況等に関する産地会議を開催
- <玉ねぎ>
 - オランダでの規制・ニーズ調査を実施

生産の転換

- <コメ>
 - 輸出用米の作付け拡大に向けた、産地の保管負荷軽減を検証
 - 空知地区計13haの実験圃場を設け、えみまるの直播・減農薬栽培体系を実証するとともに、EU基準での残留農薬検査を実施
- <かんしょ>
 - 道内21JAへの定植から収穫までの現地栽培講習、JAにおける北海道産ポット苗の増殖方法を確立
 - かんしょ選果施設でのキュアリング対策による品質向上を実証
- <玉ねぎ>
 - EUの規制に対応した特別栽培によるS規格・M規格の商品化、特別栽培・慣行栽培品のEUの基準による残留農薬検査を実施
 - 選果を行わない粗原集荷品のフレコン・バルク輸出による商品化を検証

流通の転換

- <コメ>
 - EUの包材及びインク規制に対応した新規米袋（2素材×2規格）の試験製造と検査を実施
- <かんしょ>
 - C品を活用して、現地規制で生果で輸出できないベトナム等向けにペースト、干いも、粉末等の加工品を開発し、現地での評価を調査
- <玉ねぎ>
 - 昨年度事業で改良した段ボールパレットを使用し、リーファー・CAコンテナによるオランダまでの長距離輸送を行い、鮮度保持とパレット強度の試験実証を実施
 - 粗原集荷品の販路開拓、市場調査を実施

輸出額目標（百万円）

品目	令和4年度	令和7年度
コメ	387	629
かんしょ	3.85	12
玉ねぎ	716	1,775

GFP大規模輸出産地生産基盤強化プロジェクト採択地区の概要(青森県)

実施主体名	アスノツガル輸出促進協議会
参画事業者	日本農業、REDAPPLE
対象品目 対象国・地域	りんご：台湾、香港、タイ、ベトナム、その他東南アジア

推進体制の構築

▶ 昨年に続き、日本農業、REDAPPLE、提携生産者300名程度に加え、商品資材や集荷サービスの提供を受ける形で青森県津軽地方の地元業者がサポートし推進体制を構築

生産の転換

- ▶ 暑さや病害虫の対策ができる新たな品種の開発のための品種改良実証を実施
- ▶ ニュージーランドで開発された新たな効率化栽培方法である「FOPS」について、降雪地である青森における実証実験や他の生産者への展開を実施
- ▶ りんごの成熟を遅らせ、品質の維持が可能となるスマートフレッシュ処理や、りんごをリアルタイムで観察し呼吸できるギリギリまで大気組成を変化させ品質の劣化を最小限にできるダイナミックCA技術を活用し、最適な時期に出荷可能にする体制を構築
- ▶ 交信かく乱用性フェロモン剤のコンフューザーによる病害虫発生確率の低減実証を実施

流通の転換

- ▶ 昨年の取組において、生産者の負担軽減及び輸出向けりんごの全体量が増える効果があったプラスチックコンテナについて、事業費を活用し導入全体の8%程度の導入を実施
- ▶ 弘前以外に浪岡、弘前岩木地区、大鰐の3拠点の入庫拠点を増強し、生産者～入庫拠点の輸送距離を減らすことで、りんごの品質劣化防止及び生産者の負担軽減（輸送距離の軽減or入庫サービス単価の軽減）を検証
- ▶ 陸上輸送の距離を極小化し、りんごの品質保持に寄与するため、RORO船による地元八戸港から京浜港経由での輸出を実施
- ▶ 入庫対応/原料管理における電子データによる管理システム機材を導入し、適期出荷と在庫管理を実施

輸出額目標（百万円）

品目	令和4年度	令和7年度
りんご	1,327	2,520

GFP大規模輸出産地生産基盤強化プロジェクト採択地区の概要(青森県)

実施主体名	みらいりんご輸出拡大生産推進協議会
参画事業者	JA津軽みらい、JA全農あおもり、Wismettacフーズ、他
対象品目 対象国・地域	りんご：台湾、香港、シンガポール、タイ、インドネシア（※新規開拓）

推進体制の構築

- 高単収、省力化、品種導入、肥料効果等の大規模生産に向けた協議、実証の検討、進捗状況の共有を実施

生産の転換

- 高密度栽培モデル農場（約1ha）を設置し、高密度栽培、着色管理が省力化できる品種の導入、作業の機械化、誘因攪乱剤の導入、防鳥・防風対策による生産体系の実証を実施
- 高密度専用台木の不足の解消を図るため、種苗会社を核とした台木の供給、寒冷地に適合する台木の調査、JA全農あおもりと連携した台木供給体制を構築

流通の転換

- 貯蔵倉庫にて、CA貯蔵+スマートフレッシュ+優良品種による貯蔵試験を実施
- 品種転換に向けた国内外での品種商談会参加や現地調査を実施
- 対象国現地にて、販促活動や品種嗜好調査を実施
- 現状の京浜港から、東北（青森、宮城）の港湾への積載港の転換の実証を行うとともに、鮮度保持の新機能コンテナの導入実証を実施

輸出額目標（百万円）

品目	令和4年度	令和7年度
りんご	552	379